

# 木田の里

加治木校区コミュニティ協議会だより

第 1 号  
平成 30 年  
9 月 発行

## 加治木校区コミュニティ協議会の活動状況の展望と課題

加治木校区コミュニティ協議会 会長 竹畑 薫

私たち加治木校区コミュニティ協議会は昨年度(29年度)に、まちづくりプラン(校区振興計画)に多くの時間を費やし、30年度以降のコミュニティの活動方針を明確に位置づけしました。このことにより執行部としては、年次ごとの事業計画のコミュニティの活動には心易く行事に入っている様になりました。例年の経緯から、各事業部会での積み上げも精緻なものなり反省や不具合のものを吸収され、改善見直しも頻繁になされコミュニティ事業は円滑に進められています。その結果、年々事業に地域の参加、出席する人々も増加したのは良好な状態が証明されたものと考えております。これも、事業目的の達成の為に部員方の懸命な努力の精進の賜物と考えております。この様なことから、校区住民の融和や親善事業の目的も大部分衆知され良い方向へ進みつつあります。

しかしながら、校区コミュニティの究極の目的は校区住民の安心安全な生活や生き甲斐づくりなどが大事な目的となります。これを必達する為に、校区コミュニティは高みを目指すことは当然のことと言えます。私たちは、もっと高みな事業の本質を目指して行かなければ為らないと考えています。今日の校区コミュニティは、未だ未だ校区の課題とし解消しなければならぬことが沢山あります。事業活動の目的は校区住民の福利厚生を希求して行けば課題は必ずや解消出来るものと考えます。例えば、昨今の災害事情を踏まえた、インフラ面の防災対策や高齢者対策・通学児童の安全対策・自治会員の勧誘対策・木田地域の一体的な伝統文化の高揚・地域社会の活性化の向上などが挙げられます。どれも行政関連の項目の範疇でもありませんが、私たちのコミュニティは、ひとつひとつ目的を成就出来るように行

政も地域も動かせるような事業活動を高めさせ、更なる校区コミュニティの事業活動を大きな力として、地域住民の福利厚生を高らかに求めていきます。



校区運動会

これらの対策は校区住民の融和や親善向上は当然なことであり、校区コミュニティの本質は、福利厚生が基本になければ解決対策に成り得るものではありません。今後は地域住民を包み込みながら地域にソフトランディング出来る様な企画力が必要と考えられます。時間は、かけても地域内外の知見者や先駆者の力を拝借して進めるような思考が求められると思います。そして、校区の事業活動として新たな企画や思考などは、積極的に取り組みを行いながら地域や行政も巻き込んだ活動内容を目指し、大きく発信出来るようにして行きます。先輩方が、今日のコミュニティ協議会を築かれた礎に更に気力、知力、体力を結集し、3年・5年・10年後の、校区の老若男女の豊かな暮らし・そして、明るく健康的な地域で有る様に安心安全な生活に満ちた地域創りを目指して新たな社会(地域)づくりに邁進していきましょう。

## 副会長 小島 伸一

本年度の校区コミュニティ協議会の組織改編により、副会長を仰せつかりました小島です。

今まで条例公民館時代の副館長を1年、館長を2年、そして加治木コミュニティ協議会になってから会長を3年やって参りました。この6年間を振り返りますと、館長・会長として何をしてきたのかはつきりと印象には残ってはいませんが、どちらかというと、諸行事や会合の挨拶と雰囲気づくりが大きな役目だったようです。この間、本部役員の方々や部長を始めとする各専門部員の方々は言うまでもなく、各自自治会の自治会長さん方や、自治会員全てのご理解や御協力のもと、多大なご支援を頂き、大変な迷惑をかけながらも何とか重責果たすことが出来たのではないかと思っているところです。

本年度は、今までの経験を十分に生かしながら、会長を支援していきたく思いますので、どうか宜しくしくお願いいたします。



校区運動会

番号	自治会名	地区名	自治会長
1	せんとり	木田1地区	有川 淑子
2	高井田	木田1地区	内村 陽子
3	空港団地	木田1地区	沖中 尚司
4	春日	木田1地区	内村 真吾
5	上木田	木田2地区	畑中 英夫
6	中福良	木田2地区	岩崎 学
7	楠園	木田2地区	岩下 俊男
8	新中	木田2地区	右田 郁雄
9	西ノ原	木田2地区	正野 寿
10	弥勒	木田2地区	竹畑 薫
11	赤坂	木田3地区	宮崎 光弘
12	小鳥	木田3地区	武田 信雄
13	中央	木田3地区	今村 圭二
14	原ノ門	木田3地区	福島 治利
15	新生	木田3地区	坂元 浩美

## 今後の計画

月日	曜日	行事名	場所	主催(部名)
10月27日	土曜	第4回文化祭	加小体育館	生涯学習部
11月3日	土(祭日)	自治会親善グラウンド・ゴルフ大会	加小グラウンド	健康福祉部
12月1日	土曜	親子料理教室	加小家庭科室	青少年育成部
12月16日	日曜	体育館・公民館清掃	公民館	総務安全部

## 加治木校区コミュニティ協議会組織表(平成30年度)

会長	竹畑 薫	総会(決定機関)	・役員 ・代議員(各自治会代表2名)
副会長	小島 伸一		
役員会(計画・立案)	会長 副会長 事務局長 4部長	事務局	事務局長 馬場修二 コミュニティ支援員 小野田健一
		特別委員会・実行委員会	運動会・文化祭等の校区単位の活動の企画運営・実施
支援員	小野田 健一	常任委員会(自治会代表等)(審議機関)	
		監事	四元 善次 種森 康男

## 平成30年度各部：各部長の紹介

健康福祉部 部長 山口 秀則

私たち、健康福祉部は、部員7人で校区コミ協三大行事の一つ運動会について話し合ったことを、常任委員会に提案し承認して頂き内容にもとづき

役割分担表を作成し、実行委員会で各部員に役割について説明し、また各自治会の自治会長・体育部長・育成部長さんの協力を頂き、全種目選手名簿を提出

をしていただきました。開催当日は、幼児から高齢者までより多くの地域住民の方々が参加していただき、コミュニケーションが図られたとおもいます。

第3四半期の秋の行事として11月3日に自治会親善GG大会を開催いたします。日頃、地域の皆様方が、健康増進の為に体を動かされて活動されていると思います。このGG大会は、初心者からベテランの方々までだれでも参加できる行事です。この機会に、他自治会の方々とコミュニケーションを図り絆を深めてみませんか。内容については、後日回覧にて案内いたします。

生涯学習部 部長 山元 多門

文化活動の場として

今年度も加治木校区住民皆様の生活史由来の暮らし、伝統と文化に満ちた四季折々の生活感性を発表する文化活動の場（文化祭）を「第四回加治木校区文化祭」を開催すべく準備中でございます。

個人・団体でそれぞれ出品・出演していただくようお願いをし、今年も多彩にそして高度な催しとなるようです。昨年同様、伝統行事・郷土芸能を愛し、誇りを持って継承するもの、我が校区に多く伝えられている伝統・文化に満ちた郷土芸能を校区住民の皆様が一同に文化活動の場を作り、誇りを持って開催できる「校区文化祭」になるようです。

私も加治木校区コミュニティ協議会の生涯学習部のお手伝いをして三年目になり、この「加治木校区文化祭」は校区住民の皆様のご協力なくしてはできません。

ご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。そして、文化祭会場へ足をお運びください。

青少年育成部 部長 榎原 祥子

今年度、青少年育成部長になりました榎原です。初めてのことで分からないことも多々ありますが、周りの方々に助けて頂きながら頑張りたいと思います。よろしくお願いします。この部では将来を担う子供の健全な育成を目指して活動しています。8月3日は、夏休み日帰り研修旅行（川内市消防局防災研修センター、串木野国家備蓄基地、勘場蒲鉾工場見学）がありました。消防局では防災について体験を通して学ぶことができました。工場見学では、あつあつのつけあげを食べた子どもたちが家族にお土産を買う姿も見られ、楽しいバス旅行となりました。8月18日、親善親子レクリエーション大会では、スポーツ推進委員さんによるペタンクやカードを使ったゲームもあり、大いに盛り上がりました。11月は校区ウォーキング、12月は親子料理教室も計画しておりますので、ご参加、ご協力をお待ちしています。



日帰り研修

総務安全部 部長 宮崎 光弘

今年の総務安全部会の仕事は、主に地域情報事業、環境美化事業、防犯・防災事業、交通安全事業等の分野であります。

特に、前期は防災（豪雨災害対策）、後期には料理教室の代わりに健康対策全般について、取り組みたいと考えております。

既に防災（豪雨災害対策）については、6月16日に実施しました。昨年の7月5日死者40人、行方不明者2人を出した九州北部災害を教訓にしたいと考え、市役所の危機管理課に出前講座を依頼して、基本的な対策を指導してもらいました。

大事な事は、非常時の持ち出し品（防災グッズ）の備え、情報の確認（防災ラジオ、携帯、テレビ、市役所からの広報など）、地域・家族同志で避難場所の確認（加治木校区に避難場所の指定はない）、避難指示が出る前に逃げよう。（今回の西日本豪雨災害では、60歳以上の犠牲者が7割を超えているとのこと。）

また、湿舌とか線下降水帯という情報や近年日本近海の海水温度が高いため、勢力の強い台風が襲う可能性があるため、気を付けましょう。

後期の2月には、地域情報事業として健康対策全般について、市役所の関係担当者が出前講座を予定しております。

病院で出された薬を飲まずに袋に入ったままの残薬が全国で昨年、年間約465億円もあるそうです。また、薬の副作用により科外診療で多量の病気になる人が、若い人の間違ったダイエットで栄養失調症、女性の喫煙による胎児への影響が懸念されるなど、問題が多くあるようです。

健康は食事・運動・睡眠のバランスが必要だと思いますが、お互いに勉強しましょう。皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

加治木校区コミュニティ協議会への思い 事務局長 馬場 修二

学校・家庭・地域の繋がりを考えて

時間の過ぎるのは早いもので、事業年度も半年が過ぎようとしております。本年度、事務局長を引き受けいたしました。

PTAでの経験はあるものの、校区コミュニティについては手探りであります。これまで、生涯学習や社会教育、人権教育、青少年育成教育等々で学んできたことをコミュニティ運営で少しづつ生かしていければと思っております。また、校区コミュニティに若い世代・中でも子育ての世代に多くの参加を促していきたいと思っております。PTAでは、学校と家庭と地域の繋がりが児童生徒たちの健全育成には大切な事と言われているように、どの世代でも地域離れが進んでいるのが現状です。ここ加治木校区でも同様ではないでしょうか？更に自治会離れにより自治会会員数の減少が大きな課題となっております。たくさんの子供の健やかな成長は、地域にとっても大きな財産ではないかと思っております。今の時代に「地域力」を試されているようです。様々な課題解決には沢山の時間の積み重ねが必要ですが、多くの地域の方々が、生き生きと盛り上がっていくよう、お役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。



校区運動会



日帰り研修